

令和 6 年度第 1 回堺市健康施策推進協議会 会議録

開催日時	令和 6 年 10 月 9 日（水） 午後 1 時 30 分～3 時 30 分
開催場所	堺市役所 本館 地下 1 階 大会議室
出席者	石川 朋子（一般財団法人堺市母子寡婦福祉会） 今野 弘規（学校法人近畿大学医学部公衆衛生学教室） 岡原 和弘（一般社団法人堺市医師会） 尾島 博司（一般社団法人堺市薬剤師会） 兼城 剛（堺市議会） 菊地 敏則（堺商工会議所） 久保 洋子（堺市女性団体協議会） 桑鶴 由美子（公益社団法人大阪府看護協会） 阪本 裕野（NPO 法人みんなの Well.net） 中川 祐子（一般社団法人堺市老人クラブ連合会） 中西 時彦（一般社団法人堺市歯科医師会） 長谷川 好司（社会福祉法人堺市社会福祉協議会） 花房 俊昭（地方独立行政法人堺市立病院機構 堺市立総合医療センター） 札幌 泰司（堺市議会） 豆野 陽一（一般社団法人狭山美原歯科医師会） 森 知子（堺市健康づくり食生活改善推進協議会） （50 音順、敬称略）
欠席者	大川 聡子（学校法人関西医科大学看護学部） 中村 恵理子（国立大学法人大阪大学大学院歯学研究科予防歯科学講座） 由田 克士（公立大学法人大阪公立大学大学院生活科学研究科） （50 音順、敬称略）
庁内出席者	健康福祉局（河内）、健康部（永井、東口）、 健康推進課（安岡、中岡、東野、多賀井、川本、西山、松木、大畑）、 政策企画部 公民連携担当課（手取）、生涯学習課（松本）、観光推進課（徳永）、 環境業務課（上山）、長寿支援課（幸地）、医療年金課（坂口）、 障害施策推進課（吉田）、健康医療政策課（前原）、精神保健課（中西）、 食品衛生課（武田）、子ども育成課（日名子）、 子育て支援部・幼保支援課（阪口・徳田）、雇用推進課（中辻）、農水産課（竹平）、 自転車企画推進課（増田）、公園監理課（斎藤）、学校保健体育課（高橋）、 生徒指導課（中森）、学校給食課（樋口）

案件	1 副会長の選任について 2 令和6年度さかい健康プランに資する行政の取組内容について 3 各団体のさかい健康プランに資する取組について（意見交換）
配布資料	次第 委員名簿 【資料1-1】さかい健康プラン取組項目 【資料1-2】令和6年度さかい健康プランに資する行政の取組内容 【資料2】令和6年度さかい健康プランに資する行政の取組概要 【参考資料】さかい健康プラン概要版 （机上資料） 諮問書、配席図、堺市相談機関一覧周知カード、堺のめぐみ周知カード
議事内容 （要点）	別紙のとおり

議事内容（要点）

1 開会

2 担当局長挨拶

3 委員紹介

4 案件

(1) 副会長の選任について

○今野会長

これまで本協議会の副会長を務めていた一般社団法人堺市医師会の西川委員から岡原委員に代わったため、堺市健康施策推進協議会条例施行規則第2条第1項により、委員の互選により副会長を定める必要がある。推薦はあるか。

○中西委員

堺市の健康福祉分野の取組への造詣が深い岡原委員にお願いしては。

○全員

（同意）

○今野会長

委員の皆様の賛同を得たため、副会長は岡原委員にお願いする。

(2) 令和6年度さかい健康プランに資する行政の取組内容について

■事務局より資料1-1、資料1-2、資料2について説明

精神保健課、農水産課、自転車企画推進課より取組説明

○今野会長

事務局より説明があった「令和6年度さかい健康プランに資する行政の取組内容について」、意見・質問はないか。

○中西委員

3計画を1つにするが、もともとの計画の中身が薄くなっているといけない。それぞれの計画で内容も掘り下げて取り組む必要がある。計画の期間が長いので、資料の保管、整備をしっかりとしてほしい。

○事務局

毎年健康施策推進協議会を開催し、進捗を確認予定。資料の保管には留意する。

○桑鶴委員

看護協会で「まちの保健室」を実施。計画を市民に周知するに当たり、従事するスタッフにも計画を周知した方がよいのでは。

○事務局

できるだけ多くの方々に知っていただけるよう周知に努める。

○中西委員

「健康寿命を延ばす」は良いことだが、現在平均寿命は女性で 89 歳、90 歳近いところまで伸びている。健康寿命の目標値が 77 歳ということは 10 年くらい病気や介護でしんどい状況になるのではないか。平均寿命の上昇率を見て健康寿命の目標値を設定する必要があると考える。

○事務局

中間見直しの時点で平均寿命を見ながら、目標値を検討する。

○尾島委員

自転車の利用促進として、ヘルメットの着用を促進する対策は行っているのか。

○自転車企画推進課

ヘルメットの着用は、現在努力義務として、堺市の条例・道路交通法で定められている。警察と連携してヘルメット着用の取組を実施している。また、10 月からヘルメットの無料貸出・預かりサービスをシェアサイクルも含め自転車利用者向けに堺駅と堺東駅の有人駐輪場で実施する予定。

○豆野委員

歯と口の健康に関する取組が多いことを評価している。

事業をする上で連携が大切だと思う。特に、災害時の連絡手段として、携帯がつながりにくいことを想定して衛星電話を取り入れるなど必要ではないか。メディカルケアステーション（MCS）は動画もアップでき、セキュリティもきちんとしている。今後導入検討されてはどうか。

○事務局

もしものための備えという項目もプランに入っており、連携は重要と考える。ご意見も含めて災害時の適切な連絡手段について検討する。

○菊地委員

こころの健康は発見が難しい。早く不調に気づいて医療につながる 것이大切だが、精神科の初診の予約がなかなかとれない。早期発見が大事。企業でも早期発見と、本人とのコミュニケーションが課題。

○岡原委員

精神科の初診が受診できない問題について、初診でしっかり時間を割いて診ないといけないという国の診療報酬の建付けが原因の一つになっている。再診患者を診ていると初診を取れない。医師会から国にも働きかける予定。初期段階のケアでは、産業保健の分野の問題でもあると考える。

○今野会長

産業医としての勤務もしているが、受ける相談は多くがメンタルヘルスの問題。

○菊地委員

中小企業が多い中、産業医と会社の交流が少ないことが大きな問題と思う。

○岡原委員

50 人未満の企業は産業医を置いていない企業が多い。地域産業保健センターでは 50 人未満の企業から要望があれば、医師が訪れて産業医的な支援をする制度があるので、活用いただきたい。

○事務局

働く世代のメンタルヘルスは課題である。また、働く世代である現役世代だけでなく、若者（次世代）も含めて取組を進めたい。この協議会の中でご議論いただきたい。

○岡原委員

病気になっても安心して生活できるような施策も進めてもらいたい。健康寿命は平均寿命とともに変動していくため、国や他市の動向も見ながら、堺市が優れているような状況になるように目標をもつ必要がある。最終目標が健康寿命の延伸ならば、ここは特にがんばるという重点項目を決める必要がある。

(3) 各団体のさかい健康プランに資する取組について

○今野会長

さかい健康プランの特徴として、3つの計画を一体的に策定しており、健康増進・食育・歯科口腔保健分野の横断的な視点や取組で健康寿命の延伸をめざしている。分野横断的な取組や3つの世代（次世代・現役世代・セカンドライフ）の取組において、連携の案等、委員のみなさまのご意見をいただきたい。

○中西委員

歯科の分野では、受診困難な方にどう対応するかが課題。2年前から行政と連携し、堺市健康連携支援センターを設立した。歯科医師と歯科衛生士が障害者施設に歯科検診にまわっている。今後は歯科領域でも誤嚥性肺炎予防に向けてオーラルフレイル対策に取り組んでいきたい。

○花房委員

堺市立総合医療センターは、4年前に疾病予防管理センターを立ち上げた。生活習慣病予防のため、事業所を訪問して従業員への指導を行っている。フレイル予防の観点では、身体的フレイルだけではなく、オーラルフレイルについても取り組んでいる。家原寺町自治会の住民約70名を対象に、フレイルチェック・認知症予防の活動を行っている。これを3年間実施して経年チェックする予定。オーラルフレイルは自覚なしでも、他覚的にチェックするとフレイルの人が多い。がん予防では、看護師が学校に出前授業をしている。令和5年度は10校以上に出務。令和6年度は昨年度を上回る問合せがある。

○今野会長

がん予防は、学校の先生方と連携して教育できるようになれば、子どもの家族にも広がる。

○岡原委員

医師会のはがん検診・特定健診等まだ病気でない方への早期発見の取組もしている。学校教育も必要。個人的には校医を務めており、年に一度中学生に喫煙防止の教育を行っている。家族で話し合ってもらうきっかけとなる。

○阪本委員

堺市は各区に体育館がある。地域の体育館で運動する人が増えているが、運動するだけで終わってしまって、健康に関する啓発ができていない。保健センターや子育て支援団体と横のつながりを作って啓発できるように整えていく。保健センターは平日昼からの事業が多いため、若い子育て中の保護者に来てもらいにくい。介護予防運動教室は元気な高齢者がリピーターとなっており、外に出てこれないような人には運動の機会が行き届いていない。子どもも高齢者も、運動をする人としていない人が二極化している。

○尾島委員

アイフレイルやオーラルフレイルなど、できそうなこと考えて進めていきたい。

○桑鶴委員

コロナ禍で ICN (感染に対する専門的な知識を持った看護職) でネットワークを作った。今も堺市ネットワークで繋がっており、行政とも連携しながら活動できたと思う。

○森委員

夏休みに親子料理教室を開催した。子ども食堂に来る家庭では、食事を与えてもらえない子もたくさんいる。栄養は二の次になっている現状をどうにかできないか。

○花房委員

ボランティアが子ども食堂等で活躍しており、課題も見えている。行政で支援をお願いできないか。

○事務局

栄養面の支援について、家庭の実情も踏まえてできることを考えていく。

○札幌委員

社会福祉協議会が子ども食堂に携わっている。栄養面までのサポートは難しく、まずは食を届けるということが最優先。味や栄養の検討もしているが、運営側は苦心しているのが現状。

○菊地委員

商工会議所は特に小規模事業者への支援が役割。日本の企業の 8 割が 5 人以下の小規模事業所。健康施策について直接的な支援はしていないが、セミナーの開催、健康経営支援をしていく。

経済産業省が提示する健康経営は医療費削減の意図があるが、純粹に健康であるということが大事だと思っている。

○今野会長

協会けんぽのデータを分析したことがある。健診結果から受療できているかを追跡。受療が早ければ、その後の重症化や死亡を予防できているという結果が得られた。

○中西委員

生産性の観点からも企業の従業員の健康は大事。歯科医師会も、小規模事業所従業員の歯の健診に向けての動きがある。一度商工会議所と話し合う場を持ってもよいのではないか。

もう1点、自転車のヘルメットの件について。他の政策も含め、国の方針がなくても堺市独自の罰則強化の取組ができないものか。

○自転車企画推進課

堺市は国より先行して条例を制定し、ヘルメットの着用を努力義務とした。その後、全国的に努力義務となった。罰則強化はヘルメットを被らない自由という議論もあり難しい。

○中西委員

できることなら義務化、もしくはそれに近いものにできないものか。

○札幌委員

法令と条例の上下はある。堺市だけが義務化ということは難しい。

○中西委員

国の法律が上位であることは理解している。

自転車のみならず、国で決まっているからできないではなく堺市独自としての取組を柔軟にしてもよいのではないか。

○今野会長

今回議論をいただいた取組方針のもと、行政、関係団体、みなさまと連携し、取組を進めていただければと思う。

今後、年1回程度の本協議会の中で、プランの進捗管理を行っていければ。

諮問に対する答申としても、「健康寿命の延伸に向けて、行政、関係団体、企業等と連携し、取組を進めること」という方向で行ってよいか。また、答申書の手続きについては、私に一任していただく形でよろしいか。

○全員

(同意)